

# 因島業界動向

2022年7月～9月

(令和4年7月～9月)

因島商工会議所

## 【因島経済動向調査(DI方式)報告】

(調査の概要)

1. 調査方法 FAX送信・オンライン回答によるアンケート調査(景気観測調査の回答使用)
2. 調査内容 ①景況のほか、生産額・売上額など6項目について、令和4年9月の状況と前年同月調査との比較  
②同一項目における令和4年10月～12月の先行き見通し
3. 調査時期 9月初旬～下旬
4. 調査対象 51社(製造業：17社 非製造業：34社)
5. 回収状況 回答 34社(製造業：15社 非製造業：19社)  
回答率 66.7%

**DI**：各調査項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準に、プラスの値は景気の上向き傾向（「良い」）をあらわす回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向（「悪い」）をあらわす回答割合が多いことを示す。

DI = (増加・好転など「良い」の回答割合) - (減少・悪化など「悪い」の回答割合)

※注 原材料・商品仕入価格：DI = (下降) - (上昇)

製品・商品在庫：DI = (不足) - (過剰)

従業員：DI = (不足) - (過剰)

### ～因島景況の総括 令和4年9月期～

全業種DI（良い－悪い）は、▲17（前回3月調査▲26、R3.9月調査▲51）で前回調査から比較すると+9ポイントとなった。

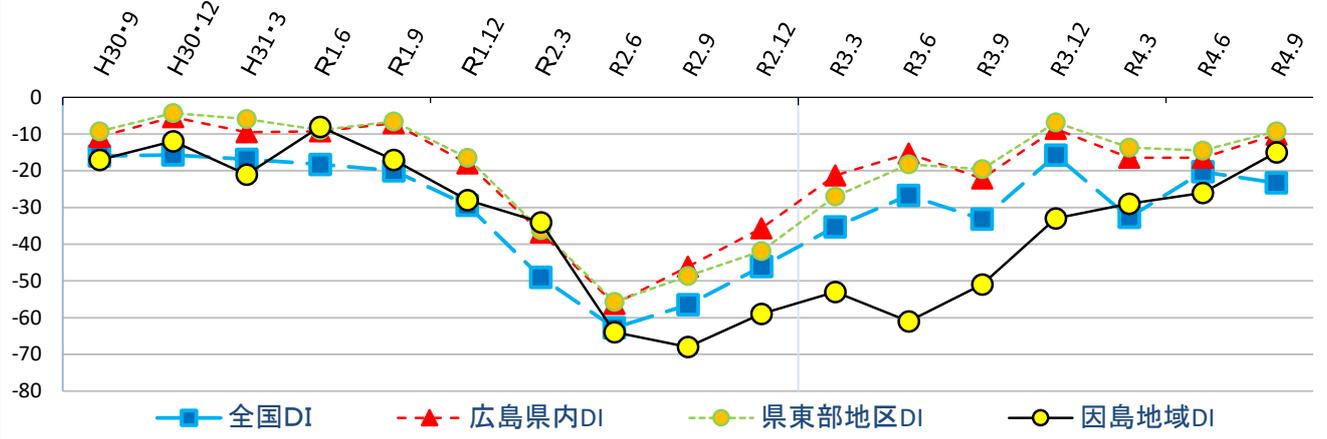
製造業では、造船・同関連：+25（前回6月調査 0）と前回調査比で+25ポイント。その他機械金属：+25（前回6月調査▲20）、食品等▲43（前回6月調査▲29）で、製造業DIは▲7（前回6月調査▲17、R3.9月調査▲37）と+10ポイントとなった。

非製造業では、建設業：▲25（前回6月調査▲25）、卸売業：▲25（前回6月調査▲50）、小売業：▲67（前回6月調査▲33）、運輸・サービス業：▲12（前回6月調査▲25）で、非製造業DIは▲26（前回6月調査▲33、R3.9月調査▲63）で前回調査より+7ポイントとなった。

【製造業】一般商船での船価上昇が続いており、建造意欲の高まりもありアジア圏で受注を確保して続けている状態。自動車部品は減少傾向ではあるが、自転車は横ばいの状態。

【非製造業】仕入れ価格の上昇が同地域内の景気に響いており、停滞感が根強く存在している。ホテル関係では造船関係者の宿泊が増えたため、好転となった。

業況DIの比較推移表



### 【令和4年9月期 景況DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.9月》

	好転	横ばい	悪化	DIポイント
<b>全業種(当月)</b>	<b>18%</b>	<b>47%</b>	<b>35%</b>	<b>▲17.0</b>
(前回)	8%	58%	34%	▲26.0
(前年同月)	6%	37%	57%	▲51.0
<b>製造業(当月)</b>	<b>20%</b>	<b>53%</b>	<b>27%</b>	<b>▲7.0</b>
(前回)	12%	59%	29%	▲17.0
(前年同月)	13%	37%	50%	▲37.0
<b>非製造業(当月)</b>	<b>16%</b>	<b>42%</b>	<b>42%</b>	<b>▲26.0</b>
(前回)	5%	57%	38%	▲33.0
(前年同月)	0%	37%	63%	▲63.0

## 【令和4年10月～12月の先行き見通し 因島景況】

全業種DI（良い－悪い）は▲29（前回6月調査▲21、R3.9月調査▲40）と前回調査から▲8ポイントの見通しである。

製造業では、造船・同関連：+50（前回6月調査+40）と+10ポイント、機械金属：+25（前回6月調査▲20）、食品等▲43（前回6月調査▲14）で、製造業DIは0（前回6月調査0、R3.9月調査▲31）で横ばいの見通し。

非製造業では、建設業：▲25（前回6月調査▲25）、卸売業：▲75（前回6月調査▲67）、小売業：▲67（前回6月調査▲33）、運輸・サービス業：▲50（前回6月調査▲25）で、非製造業DIは▲53（前回6月調査▲38、R3.9月調査▲47）で▲15ポイントの見通しである。

【製造業】当期まで安定して受注が入っているが、今後の受注については不透明。修繕部門では受注競争の激化は引き続き継続する見込みである。

【非製造業】自動車・自転車部品では業況は回復傾向であり、自転車部門はモデルチェンジによる業況増加となる見込み。公共工事や大型の民間工事は減少傾向となる模様。建設業では大手ハウスメーカーの台頭により、受注減少が見込まれる。

## 【令和4年10月～12月の先行き見通し 景況DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.9月》

	好転	横ばい	悪化	DIポイント
<b>全業種(当月)</b>	<b>15%</b>	<b>41%</b>	<b>44%</b>	<b>▲29.0</b>
(前回)	8%	63%	29%	▲21.0
(前年同月)	6%	48%	46%	▲40.0
<b>製造業(当月)</b>	<b>27%</b>	<b>46%</b>	<b>27%</b>	<b>0.0</b>
(前回)	12%	76%	12%	0.0
(前年同月)	13%	43%	44%	▲31.0
<b>非製造業(当月)</b>	<b>5%</b>	<b>37%</b>	<b>58%</b>	<b>▲53.0</b>
(前回)	5%	52%	43%	▲38.0
(前年同月)	0%	53%	47%	▲47.0

### ～因島生産額・売上の総括 令和4年9月期～

全業種DI（良い－悪い）は▲11（前回6月調査▲21、R3.9月調査▲57）で+10ポイントとなった。

製造業では、造船・同関連：0（前回6月調査+20）、機械金属：+50（前回6月調査▲20）、食品等▲43（前回6月調査▲43）で、製造業DIは▲6（前回6月調査▲17、R3.9月調査▲43）で+11ポイントとなった。

非製造業では、建設業：▲25（前回6月調査▲25）、卸売業：▲25（前回6月調査▲67）、小売業：▲67（前回6月調査0）、運輸・サービス業：+13（前回6月調査0）で、非製造業DIは▲16（前回6月調査▲24、R3.9月調査▲68）で、前回調査から+8ポイントとなった。

【製造業】造船部門では海外向け商船において円安による為替差益が生じており、収益の改善が見受けられる。しかし、資材の高騰に船価がまだ追い付いていない現状もある為、収益の増加が見込まれない現状である。

【非製造業】円安の影響もあり、卸・小売業種では仕入れ値の上昇が直接響いている。ホテル業においても地域内での料金相場も影響し、利用料金の上昇が難しく収益に繋がっていない状態にある。

## 【令和4年9月期 売上DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.9月》

	好転	横ばい	悪化	DIポイント
<b>全業種(当月)</b>	<b>21%</b>	<b>47%</b>	<b>32%</b>	<b>▲11.0</b>
(前回)	16%	47%	37%	▲21.0
(前年同月)	6%	31%	63%	▲57.0
<b>製造業(当月)</b>	<b>27%</b>	<b>40%</b>	<b>33%</b>	<b>▲6.0</b>
(前回)	18%	47%	35%	▲17.0
(前年同月)	13%	31%	56%	▲43.0
<b>非製造業(当月)</b>	<b>16%</b>	<b>52%</b>	<b>32%</b>	<b>▲16.0</b>
(前回)	14%	48%	38%	▲24.0
(前年同月)	0%	32%	68%	▲68.0

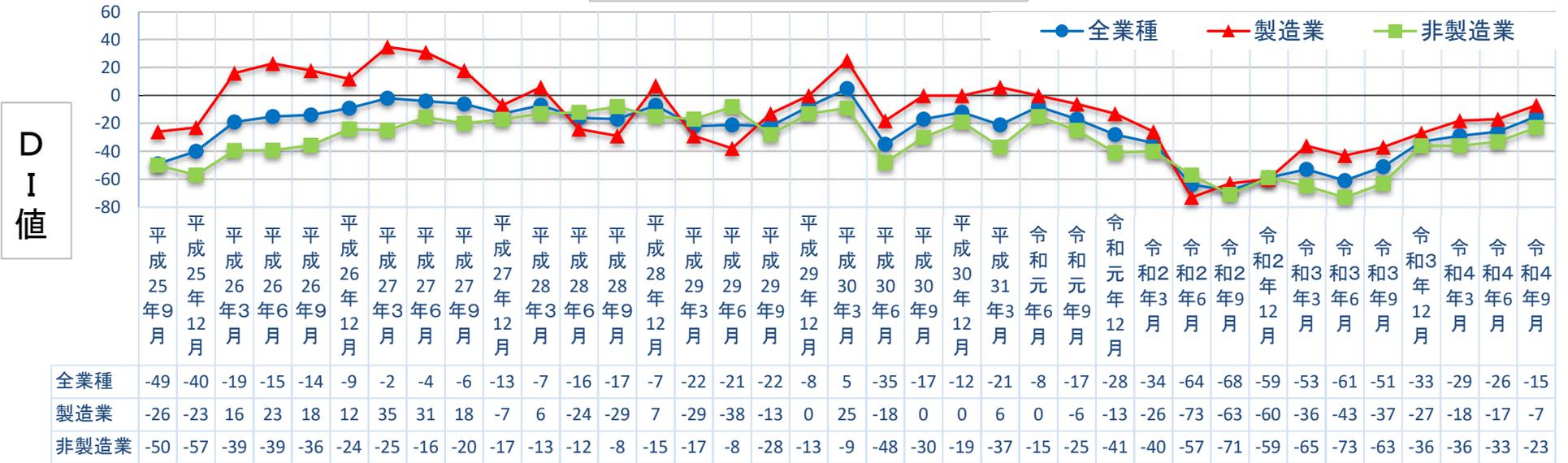
## 【令和4年10月～12月の先行き見通し】

全業種DI（良い－悪い）は▲20（前回6月調査▲3、R3.9月調査▲35）で前回調査から見ると▲17ポイントの見通しである。

製造業では造船・同関連：+50（前回6月調査+40）、機械金属：0（前回6月調査0）、食品等▲29（前回6月調査0）で製造業DIは0（前回6月調査+12、R3.9月調査▲25）で前回調査より▲12ポイントの見通し。

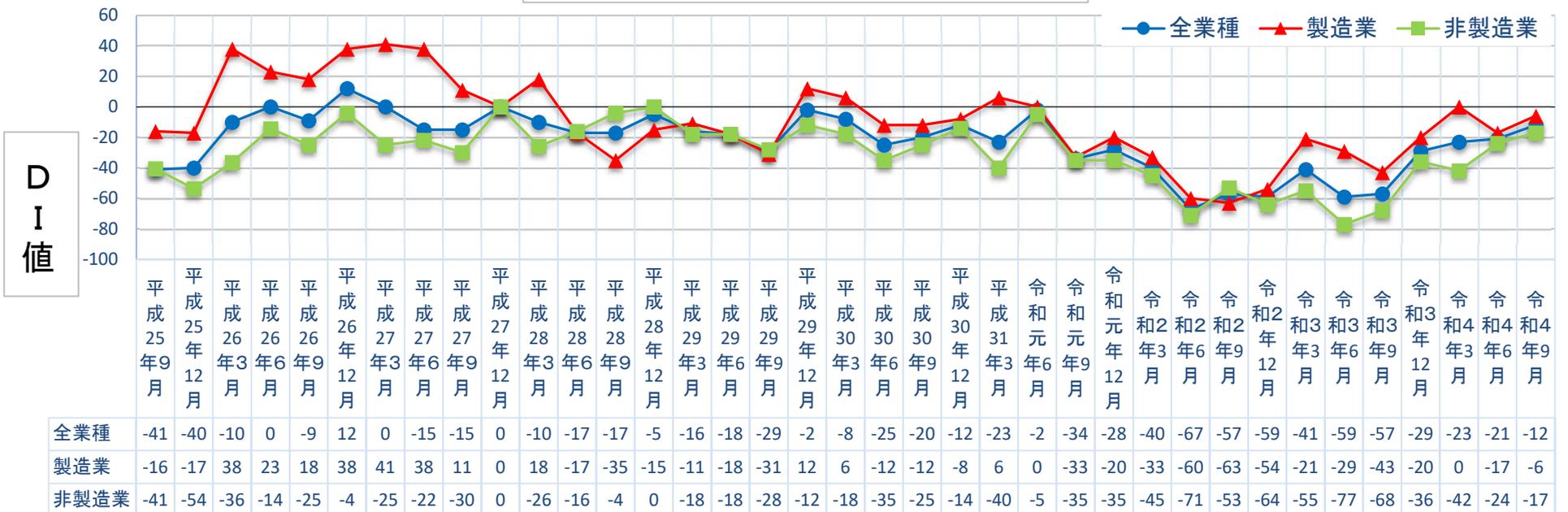
非製造業では、建設業：▲25（前回6月調査▲25）、卸売業：▲75（前回6月調査▲16）、小売業：▲67（前回6月調査0）、運輸・サービス業：▲13（前回6月調査▲13）で非製造業DIは▲36（前回6月調査▲14、R3.9月調査▲42）と前回調査より▲22ポイントの見通し。

### 因島地域の景況感の推移



3

### 因島地域の生産額・売上額の推移



### 3.【在因島金融機関取扱い(残高)状況】

※令和4年8月末現在

(単位:百万円、%)

項目		残高合計					
		預金	前年 同月比	貸出金	前年 同月比	預貸率	前年 同月差
R3年度末		<b>138,465</b>	<b>104.3%</b>	<b>52,814</b>	<b>101.4%</b>	<b>38.1%</b>	<b>-1.2</b>
R4 年度	第1/四期末	138,576	103.1%	52,632	100.3%	38.0%	-1.0
	第2/四期末	138,503	101.7%	52,875	102.1%	38.2%	0.2

地方銀行2行、信用組合1行、計3行の合計。

### 4.【企業倒産状況】(負債総額1,000万円以上)

(単位:件、百万円)

項目		倒産件数		負債総額		備考
		件数	前年 比 (%)	金額	前年 比 (%)	
R3年度総数		<b>0</b>	<b>0.0</b>	<b>0</b>	<b>0.0</b>	年度計
R4 年度	第1/四期末	0	0	0	0	期計
	第2/四期末	0	0.0	0	0.0	〃

(株)東京商工リサーチ広島支社調)

### 5.【月間有効求人数・月間求職者数・求人倍率】

※令和4年8月末現在

(単位:人、倍)

項目		有効求人数		有効求職者数		有効求人倍率		備考
		人数	前年 比 (%)	人数	前年 比 (%)	倍率	前年	
R3年度平均		<b>2,966</b>	<b>108.7%</b>	<b>2,090</b>	<b>102.3%</b>	<b>1.42</b>	<b>1.34</b>	
R4 年度	第1/四期	2,832	99.8%	2,124	91.0%	1.33	0.12	
	第2/四期	3,059	106.1%	1,962	94.0%	1.56	0.18	

注:新規学卒者を除き、パートを含む。月平均は四捨五入。

(ハローワーク尾道調)

## 6.【経営改善資金推薦状況】

(単位:件、万)

項目 年月		推 薦					決 定			
		件数	前年比 (%)	金 額	前年比 (%)	運 転	設 備	件数	金 額	前年比 (%)
令和3年度		22	61.1	20,480	65.1	17,423	3,057	23	20,680	70.2
R4 年度	第1/四期末	2	28.6	1,800	37.3	1,560	240	2	1,400	27.9
	第2/四期末	4	80.0	3,470	74.3	2,650	820	4	3,470	76.3

※件数、金額は集計時以降変動する可能性があります。

(因島商工会議所調)

## 7.【因島商工会議所会員数】

(単位:者、社)

区 分	6月30日現在 会 員 数	新規会員数	脱退者数	9月30日現在 会 員 数
法 人	487	2	3	486
個 人	461	1	8	454
合 計	948	3	11	940

※注:組織変更含む

## 8.【今期のアンケート調査結果】

回答件数 24件

◆新型コロナウイルス感染により、感染症対策という意味でのBCP(緊急時の企業存続のための対策などを定めた事業継続計画)への注目が高まっている中、因島地区内でのBCP策定状況について調査したところ、「必要と思うが策定していない」と回答事業所が18社と本調査上で最多となった。LOBO調査においても同項目が最多となっており、人的余裕の無さやノウハウ・スキルの不足によるBCP策定が進まない要因となっている。

